



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

「〇〇さん！それはアサーティブなのか？」

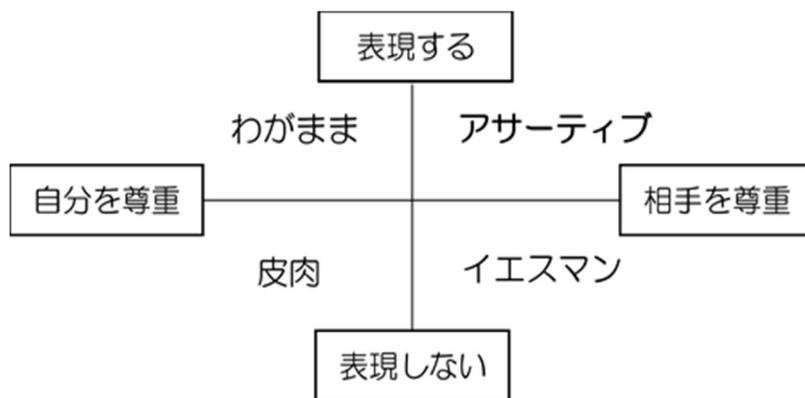
学生が社会に出ると年代の違う上司や先輩とのコミュニケーションに悩むという話は以前からあります。最近では、ハラスメント問題が顕在化し、やさしい上司が増加しているという話も聞きます。それでも、人間関係の悩みは消えません。2023年8月の厚労省の資料に「20～24歳が早期退職した理由」があります。男女共に1位は「労働条件」、また、今号でお話したい「職場の人間関係」は、男子が3位で女子は2位でした。

そんな「コミュニケーションの壁」を乗り越えるために必要なものは何でしょうか。それは自分も相手も大切にする“アサーション”になります。だから中1や中2では「アサーションTR」の講話をしています。このアサーションについては、私自身も何回も発信しています（校長研修だより71号137号・校長講話2021年7号2023年4号）。なぜなら本校は、「心地よい関わり合いを大切に、のびのびと青春を謳歌する学校」であることを学校文化にしたいからです。

冒頭に人間関係が原因で新卒入社した会社を辞めてしまう話をしましたが、実態調査において、かつてのようなパワハラは減少傾向にあるものの、新たに「ゆるい職場」が若手の成長のネックになっているとも言われます。そのことも「コミュニケーションの壁」から生まれています。つまり上司や先輩が、遠慮して言わなかったり、無関心的に期待しなかったりするからです。上司や先輩が優しくなっただけでは、実はコミュニケーションに関する問題は解消されていないのです。

高校・大学を卒業して社会に出た若い人たちは、それまでの同一年齢で価値観も似通った集団から、世代も価値観も異なる多様な人たちが集まる環境に飛び込むことになります。でも、そのギャップは誰にでもあることであり、決して自分だけの問題ではないのです。そのうえで、わからないことについてはわからないと素直に聞けることが、大切になってくるのです。ここに“アサーション”という考えが大きく関わってきます。

アサーションとは、「自分も他者も尊重するコミュニケーション」のことです。例えば、「相手の気分を害さないように言いたいと言わない」というスタンスは、相手は尊重しているが自分を尊重していません。また、一方的な自己主張の押し付けは当然ながら相手を尊重していません。下図の4象限のプロット図に示したように、自分と相手の尊重のバランスが崩れると「わがまま」「皮肉」「イエスマン」に陥ってしまうのです。



一言で言うと、アサーションとは「私はこう思うけど、あなたはどう思う？」というコミュニケーションになります。自分にとっての正解が、相手にとっても正解かどうかわかりません。だから対話し、協働することで何かを生み出していくのです。これはまさに、教科の授業の学習プロセスと同じです。

アサーティブだと相手を理解したいという気持ちが強くなり、「人から学ぶ」という姿勢にもつながります。つまり、アサーティブは学力向上にも、人の成長にも、社会に出た後の「コミュニケーションの壁」の克服にもつながります。だから本校では、入学時から徹底して「それはアサーティブなの？」という問いを学校文化になるまで生徒に投げかけていきたいと思っています。